



プレジジョン・システム・サイエンス ①

異彩を放つ

「僕の剣道の技は飛び込み面だけ。それしかやらない。『こた』という瞬間に飛び込む。実に明快」。プレジジョン・システム・サイエンス（PSS）社長の田島秀二は、剣道部に所属していた高校時代を懐かしそうに振り返る。

（こ）と決めたら徹底的にこだわる田島の性格は、そのままPSSという会社の性格を端的に物語る。独自のデオキシリボ核酸（DNA）抽出装置をロシュやキアゲンといった名だたるグローバル企業へ供給し、世界シェアの50%以上を握る。欧米と比べて20年は遅れていると言われてきた日本のバイオベンチャーの中で、PSSの存在はひととき異彩を放っている。

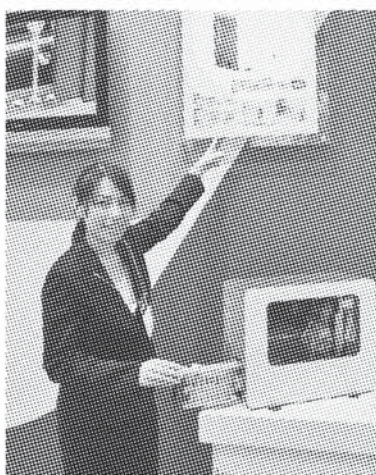
PSSの2010年6月期連結業績は前期を大きく上回る増収増益の見通し。

感染症の検査は一般的に、患者などの細胞からウイルスや細菌の遺伝子を抽出し、その数を増幅した上

売上高で約5割、営業利益で3倍以上の伸びが予想される。世界的な新型インフルエンザの流行や、国内での警察のDNA鑑定体制強化などを背景に、DNA抽出装置の需要が大きな盛り上がりを見せたことが追い風で、01年の株式上市以来、初の株式配当も実施する計画だ。

世界的な特許

DNA抽出装置で世界圧倒



臨床向けに開発した新製品「geneLEAD」。全自動でDNA抽出から解析までを行う

で検出するという工程をたどる（PCR法）。この抽出で活躍するのがPSS製の装置だ。コア技術には同社が世界的な特許を保有する磁性体粒子を用いた自動化技術「マグトレーション・テクノロジ」を活用。

M（相手先ブランド）製品が紹介されたことも拍車をかけた。飛び込み面 田島は言う。「新型インフルエンザ検査にかかわる一連の動きは、臨床現場で本格的に遺伝子を検査する時代を迎える、トリガーになった」とはいえ、臨床現場で使える装置がなければ普及もままならない。そこでPSSが出した答えが抽出増幅解析を全自動で行う小型の装置「geneLEAD」だ。専門の技術を持たない医師でも遺伝子診断ができる「当社にしかできない装置」（田島）。100万円を切る価格で今期中にも発売し、医療の現場での普及を目指す。 geneLEADは「株 式を上場した10年前から構想を練っていた。今やらなければチャンスは二度と来ない」。そう語る田島の普段は柔和な表情が一瞬引き締まり、目が強い光を帯びた。高校時代、飛び込み面を放つ直前の表情もちょうど同じだっただろう。PSSは今、次のステージに向けて大きく跳躍しようとしている。（敬称略）

遺伝子診断時代、時をつかむ

▽所在地 千葉県松戸市上本郷88-047・303・4800▽社長 田島秀二氏▽従業員 104人（連結）▽資本金 20億5400万円（10年3月末現在）▽売上高 38億200万円（09年6月期）▽URL www.pss.co.jp▽大阪証券取引所ヘラクレス上場